

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域社会の一員として連携を保ちながら穏やかにその人らしく暮らしていける事」を基本理念掲げている。目に触れる場所に掲げ、常に意識し業務にあたっている。	職員が話し合い作り上げた理念の基、実践に繋がる様、日々努力されている。今後理念を基に目標設定を行う取組みも計画され、より具体的な取組みに繋げて行かれようとされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流の場が少ないが、散歩中の挨拶を行っている。	自治会にも加入され、地域の一員として交流していきたいという姿勢は伺える。公民館や幼稚園等との交流はある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から介護技術の講習の希望があるが実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員、利用者家族、民生委員、市役所職員らで構成された会議を2ヶ月に1回開催し、日頃の取組みの報告をし、意見を頂いている。	利用者、家族、民生委員、公民館長、市役所職員、包括職員の参加を得て、2ヶ月に1回開催されている。ホーム側からは日々の取組みや状況の報告、地域の方から地域行事等御意見、提案を頂いておられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ出向く、生活保護者のカンファレンス・連絡を行なっている。	生活保護受給者や困難事例等利用者の支援に関する相談をするため、市の長寿社会課や福祉課と連絡を取りながら行っておられる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が正しく理解しており身体拘束は一切ありません。施錠は不審者進入を避ける為、夜間のみ玄関エレベーターで行なっています。	研修を受け、伝達講習を行っている。日頃の職員会議等でも、スピーチロックについても触れるようにされ、職員間でも注意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は一切ありません。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で成年後見制度について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを重ねています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族を招待してのレクリエーションを行なっている。その場や面会時、近況報告書にて意見、要望があれば言うていただくように伝えている。	面会時には、近況報告を行い、御意見や要望を引き出すように心掛けておられる。また、利用者の方に変化があった場合には、電話等でお話をするようにされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議、または普段の業務の中で職員から意見を聞いている。	月1回の職員会議で職員の意見要望を聞くようにされている。今後ユニット会議も予定されており、より決め細やかに意見収集が可能となる。自己評価による個人面談も実施され個別の意見吸い上げもされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員ではないが、研修に参加している職員はいるが研修報告の場があまり持たれていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員全員は実施されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に聴いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面接時に聴いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を望んでおられるかをしっかりと聴き、見極めている。 アセスメントを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来ることをしたり、いろいろな話をしたり、家族のように接することを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを図れるように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の要望に応じて外出を行なっている。	会話の中から引き出しながら、併設のデイサービスの知人にあったり、自宅に戻り掃除をしたり、墓参りに行ったり、馴染みの商店、美容院に行ったりと様々な取組みを行ってられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に気に掛けている。 必要に応じて席替えを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、連絡や来所、訪問をする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から聞いたり、その人の生活歴から検討している。	アセスメントから分かる生活歴や職歴などを参考に日常会話の中から思いや意向を把握するようにされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報収集し、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送り等で全職員が把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師などから意見を聞き、アセスメントの上、担当者を中心に話し合い介護計画を作成している。	プランに対しては毎月見直し、3ヶ月1回見直しを行っておられる。職員間で話し合い、主治医やご家族の意見も取り入れながら進めておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、連絡ノートを活用し、気づき等の情報共有、意見交換を行い、実践、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、対応し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂き交流している。医療機関との連携を保ち、本人が身体的に安心して暮らせる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診時、状況説明を行なっている。	本人、家族の希望に沿って受診を行っている。提携医より往診も月1回あります。家族の都合が付かない時には、職員が付き添い、医師、家族との連携も図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を週1回利用し、相談したり、処置を行なってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面談の調整を行い、病院関係者と情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医と共通の認識を持つ為の面談、報告を行い、チームとして支援に取り組んでいる。	法人としては、看取りは行わない方針ではある。入所時、重度化の段階で本人、家族に説明し、どのように支援を行うか話合われて、その後、関係機関や医療機関と連携を取りながら支援をされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員を対象とした救急救命講習を行なっているが、新しい職員には実施できていない。事故発生時の対応はマニュアル、勉強会で周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練はあるが全職員参加しているわけではない。勉強会で報告している。運営推進会議で地域の防災について、また、避難所等の説明を受けている。	年2回避難訓練を実施されている。日中想定と夜間想定となっている。運営推進会議の中でも防災について話し合われている。備蓄についても用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持って対応するように勉強を通じ、心掛けている。	職員会議の折や、研修参加のあとには伝達講習を行うなど、人格の尊重、接遇を含め理解を深める話し合いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示のしやすい声掛けや雰囲気を作るよう心掛けている。また、本人の希望(発言、行動)に気づくように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞いてなるべくそれに沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでもらったり、職員が好みや季節に合わせてその都度支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にお願ひし、一緒にしている。利用者本人からも自発的に準備や片付けをされる。	調理の準備、片付けなど一緒にできる利用者の方には御手伝いを頂いている。職員は見守りや介助をしながら、同席しながら、和やか雰囲気を利用者の方は召し上がっていた。おやつ作りも職員と一緒にできることは手伝っていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を表でチェックしている。本人の嗜好も考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて自立または介助で行なっている。口腔内の食物残渣のある利用者へは誤嚥防止も含め、口腔内のチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け、必要に応じて誘導を行なっている。リハビリパンツから布パンツの使用へ変更を行い、排泄能力の維持、向上、コストの削減を行なっている。	排泄のチェックやパターンを掴みながら、トイレでの排泄を支援され、個々に応じた、布パンツ、リハビリパンツを使い分けしながらの支援がされていた。誘導もプライバシーに配慮して行われていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動が難しい方が多く、食物での工夫及び薬による予防を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入って頂ける様にしている。	毎日、午後に入浴可能となっている。ユニットごとの個浴と併設のデイサービスの天然温泉での入浴も利用者の方の希望で可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の心身の状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理、介助を行なっている。症状の変化に気を配り、医師、薬局に相談し服薬調整を行なう。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事をして頂いたり、喜ばれるレクリエーションを企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には戸外に出るようにしている。地域の祭りでは、事前に参加の意志を伝え、見学場所の確保等、配慮してもらっている。	天気を見ながら、なるべく外出の機会をもてる努力をされている。近隣への散歩や買い物、ドライブなど利用者の方の希望を聞きながら支援されている。お盆や正月、墓参りなどは家族の協力を得ながら支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを避ける為、管理者が管理しているが、必要時には、職員が付き添い本人が所持、支払いを行なえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は掛け間違いを防ぐ為、職員がダイヤルし電話して頂いている。手紙は本人の要望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、季節感のあるちぎり絵、カレンダーを利用者と作成し、リビングに掲示している。適度な温度、湿度を保てるよう注意している。	共用のスペースには季節感のある利用者の方の作品が飾られ、温度管理や湿度の調整などもされていた。廊下にはソファがおかれ利用者の方のくつろげる空間作りもされていた。また、デイサービスと共用の喫茶コーナーも有りくつろげるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必要に応じて席替えを行なっている。また、居間横の廊下に椅子を設け、くつろいでもらうスペースを提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していたもの、好みものを置いてもらっている。	自宅から持ち込まれた家具や仏壇などあり、また写真などが飾られており、自宅に近い雰囲気作りもされて、利用者の方が居心地良く、落ち着いて暮らせるようにされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置、危険物の除去など安全な生活が送れるよう工夫している。		